

取扱高11%増4.9兆円

全農22年度決算 飼料、資材高騰で

J A全農は19日、2022年度の決算概要を明らかにした。取扱高は前年度比11%増の4兆9606億円。畜産事業や営農・生産資材事業の原料価格上昇などが影響した。計画では8%上回った。企業の売上総利益に当たっては前年度比11%増の972億8600万円だった。

▼一面参照

全農は28日に通常総代会を開く。それに先立ち、事業実績や決算概要を含む22年度業務報告書案をまとめた。事業総利益は、取扱高の増加に加え、メー

カ―売りの渡り時の肥料・飼料価格の高騰などが要因で増えた。計画は5%上回った。事業管理費は、前年度比3%増の914億9600万円。新型

コロナウイルス下の行動制限の緩和などで旅費交通費などの業務費が一定程度増えた。一方で計画は下回った。事業総利益から事業管理費を差し引いた事業利益は57億8900万円。前年度は14億7000万円の赤字で計画は収支均衡だったが、プラスに転じた。

経常利益は受取配当金の増加などにより、同128%増の186億1200万円だった。計画の84億円を大幅に上回った。取扱高は、いずれの事業でも前年を上回った。米穀農産事業は、販売数量の増加で、前年度比1%増の6737億円だった。園芸事業は同2%増の1兆1207億円、営農・生産資材事業は同13%増の8779億円、畜産事業は同27%増の1兆3751億円、生活関連事業が同9%増の9132億円だった。

J Aぎふが相談センター 資産・老後の悩み解消

「ぎふ」J Aぎふは、地域住民の資産や暮らしに関する悩みを総合的にサポートするため、「J Aぎふ相談センター」を開設した。社会保険労務士やファイナンシャルプランナー(FP)などの資格を持つ専門スタッフ12人が対応。J Aには、相続や老後の収入確保に関する相談が多く寄せられている。

ことから、事前に対応し、住み慣れた街で安心して暮らせる地域づくりを目指す。

同センターでは、相談センターを開設した。家族信託や遺産相続、不動産の売却・賃貸・活用の相談、任意後見契約・死後事務委任契約・法定後見委任といった後見制度に関する相談を受ける。他にも、ローンや年金、資金運用などの相談対応、弁護士、税理士による無料相談も行う。土曜日にも営業日を設けている。

7月上旬に、岐阜市長長にある旧長良西支店を同センターとしてオープン。J Aの櫻井宏会長や岩佐哲司組合長ら役員らがテープカットした。

同センターを統括する相談部の大田哲也部長は、「事前に対応する。家族信託や遺産相続、不動産の売却・賃貸・活用の相談、任意後見契約・死後事務委任契約・法定後見委任といった後見制度に関する相談を受ける。他にも、ローンや年金、資金運用などの相談対応、弁護士、税理士による無料相談も行う。土曜日にも営業日を設けている。」と語った。

可能な限り応えたい

「言葉が通じません。支所長さん、ある日、支所長さんの「やるべきこと」とを話して、おのずと結果が生まれていきました。一生懸命頑張ろう」と心を決めた。

「組合員・利用者への対応や、訪問で心がけていることはありますか。組合員や利用者からお話を伺うことは、可能な限り応えたいです。複数の保障内容の見直しを依頼されたときには、お伝えしたい内容を一枚にまとめ、図が入ったオリジナル資料を作り、説明します。組合員を思い浮かべながら作ったオリジナル資料は説明しやすく、組合員からも好評です。」

「JA岡山弘実彩香(次回は27日付)」

「私の渉外ノウハウ Q&A」

「新任のライフアドバイザー(LA)へのアドバイス。最初は、知らないことばかりで不安だと思いましたが、自分なりに考えて、何でも解決したいので、自分で抱え込まず、周囲の人に相談することが大切だ。普段から、上司や同僚とコミュニケーションを取り、相談し合える関係性をつくる。緊張がほぐれて、組合員や利用者とのコミュニケーションもスムーズにいくと思えます。」

JA岡山邑久支所 粟井 真輝さん



支所長に相談する粟井さん(岡山県瀬戸内市で)

「JA岡山弘実彩香(次回は27日付)」

「JA岡山弘実彩香(次回は27日付)」

「炭素化加速へ効果検証 資金を農中総研セミナー」

農林中金総合研究所は19日、農業の脱炭素化をテーマにオンラインセミナーを開いた。高山航希主任研究員が講演し、農業分野で温室効果ガスの排出削減に必要な資金が不足しているという指摘。技術や手法などの削減効果の検証と、民間・政府などの資金による支援の拡大、地域に根差した金融事業を行うJ Aの役割発揮などが、脱炭素化の鍵になるとの見方を示した。

農業分野での温室効果ガス削減に向けては、品種改良の他、施肥の最適化や、バイオ肥の土壌中に炭素をため込む技術などさまざまな方法が実証されている。一方普及拡大には資金不足が課題だ。高山氏は政府や民間のさまざまな資金を組み合わせ課題を解決している海外の例を紹介した。インドでは政府と民間が5年間で1億7500万を出資。集落単位で土壌の検査所を設置し、過剰施肥を抑制した。

高山氏は今後、温室効果ガス削減技術の検証が重要になると指摘。立地や作物、品種ごとに調査し、農業経営への効果を含めて結果を発信することが「投資の呼び水になる」とみる。「地域の気候や慣行、文化をよく知っているJ Aは、金融機関として役割を發揮でき」と述べ、J Aに期待を寄せた。



世界医師会総会で談笑する武見と若月

対極の医師との交流

二人が竜虎の対面

1960(昭和35)年10月、雑誌「文芸春秋」の巻頭グラビアに二人は、医師10人として見開きページに相對して掲載されているが、当時二人の間には交流は全くなかった。

二人の関係が生まれるきっかけは、本連載の14回目に述べたが、佐久病院の付属施設である農村保健研修センターの認可に際してであった。同時に、農林省では農村生活総合センターの設立準備を進めており、その発起人になつて武見太郎が同種の施設をつ造ることに難色を示し、さらには若月が「アカだか許さない」とのことで許可されなかった。

そのことを耳にした農村生活総合センター事務理事であった矢口光吉は、武見の所へ飛んで行き、「農村生活の研究機関と農村医療に尽くされる方の研修機関とは性格が違うでしょう。また、武見先生も世直しの医者で自認しておられるのなら、若月先生も実際に患者を治し、社会の在り方を治そうとする世直しの医者です。若月先生を赤と黒、赤と黒ならスタンダードが喜ぶでしょう。お会いにもならず批判されるのは卑怯

若月 俊一 ~農村医学の父~ その24

第7部

協同の系譜

78年、ワイリピン・マニラで開催された第32回世界医師会総会において若月は武見の推薦によって、「へき地医療」のテーマで特別講演を行っている。そして94(平成6)年には、「農村医療の拠点である佐久病院の実践を通じて農村医学を振興し、地域包括医療体制を先進的に確立した」として第5回武見記念賞を贈られている。それに先立ち89年、矢口は「わが国の農村における生活の安定と福祉の向上のために理論と実践をもって貢献した」との理由により第2回武見記念賞を受賞している。

矢口は幼い頃から貧しい農村の人たちに尽くしたいと思つた。佐久病院の開拓地を手伝いながら47年、東京女子医学専門学校を卒業。49年に農林省に入省している。以後一貫して農村の生活改善に取り組み、一方で農村女性の代弁者としての地位を高める活動を実践してきた。75年、農村生活総合センターを設立し、専務理事に就任している。入省2年目に佐久病院に若月を訪ね、数々の指導を受けた。その後、出張診療にも参加し、その経験と知識を後の多くの行政の仕事に生かしてきた。

日本農村医学会は農林省の委託を受けて52年から96年まで、佐久病院の若月を中心に数多くの農村医学に関する調査・研究を重ね、その結果を基に、農業者の健康維持管理活動、労働環境改善活動への指針が生活改良普及員に提供されたのである。

(JA長野厚生連佐久総合病院名誉院長・夏川周介)

(次回は27日付)

水稲のウンカ類に即効的に効く!

セジロウンカ トビロウンカ ヒメトビウンカ

総合基幹殺虫剤

トレボン

粉剤DL/乳剤/エア-/スカイMC

三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社

東京都中央区日本橋1-19-1日本橋ダイヤビルディング

ホームページ https://www.mc-cropifolutions.com

広告企画 長距離移動性ウンカ類の発生動向と防除のポイント

4面の続き

トビロウンカと坪枯れ

トビロウンカの飛来数は通常稀な1、2匹程度と非常に少ないが、水田内で2、3世代増殖を繰り返して、収穫期ごろには1株当たり数百匹にもなることがある。写真①は穂が枯死する「坪枯れ」被害を引き起こすトビロウンカ。今年も早い時期から飛来があったことから、早稲でも本種の発生に注意する必要がある。本種は05年以降、一部の薬剤に対して感受性が低下(薬剤が効きにくい)しているため、病害虫防除が発表する防除技術情報などを参考にし、効果の高い薬剤を使用する。

セジロウンカとイネ南方黒すじ萎縮病

セジロウンカはトビロウンカに比べて飛来量が多いが、成熟した稲を好まないため、2世代増殖した後、水田から移出する。このため、通常は水稲後期に大きな被害を起さない。しかし、イネ南方黒すじ萎縮病など発生しやすいので、多飛来時には注意する。本種も一部の薬剤に対して感受性が低下しているため、効果の高い薬剤を選択し、多発生時には追加防除を行う。

農研機構 植物防疫研究所 基盤防除技術研究領域 海外飛来性害虫・先端防除技術グループ 真田幸代